

## 新人紹介



温故会  
直方中村病院



vol.33  
2014年夏号

# 泰らぎ



写真:よこいと運動会にて

- P1. 表紙、目次
- P2. 地域に求められる病院をめざして(李医師)  
私から見た直方中村病院Vol.4(なおみの会)
- P3. よこいと運動会  
委員会リレー(褥瘡対策委員会)  
クイズ
- P4. 新人紹介  
地域情報(遠賀川河川敷のヤギ)



## 遠賀川河川敷のヤギ(直方市)

直方市の遠賀川水辺館のすぐ下の河川敷に10数頭のヤギが杭につながれ、のんびりと草を食べています。その中に2匹の子ヤギがいて、母ヤギのおっぱいを飲んだり、子ヤギ同士じゃれ合ったりして、見ていだけで癒されます。当院3病棟の認知症の患者様も何度か見学に行かれたようです。

実は遠賀川水辺館のおやじの会の清野重秋さんが、当初は土・日だけ芝刈り実験という名目で、自宅で飼っているヤギを放牧されていたようですが、平日も放牧して欲しいという要望があつて、今では平日も放牧しているようです。

1年間以上、特に事故もなく、今では移動動物園として市民に愛されています。人を怖がることもなく、触れることもできるので、本当にかわいいですし、子ども連れの家族がヤギと触れ合っている様子もとても微笑ましいです。(広報委員H)



生後六日目の子ヤギ

いくつかあったかな?

## クイズの答え

答え:①イタリア ②オランダ ③ブラジル ④ロシア ⑤アルゼンチン

### ■発行所

医療法人社団温故会 直方中村病院  
〒822-0002 直方市頓野993-1  
TEL.0949-26-1522  
<http://www.onkokai.jp/nakamura/>

### \*編集後記\*

私が広報委員会のメンバーになって2年目になります。締め切りに厳しい委員長のもと、余裕を持って取り掛かれるといいのですが、私の性格上そうもいかず、毎回ギリギリに追い込まれています(>\_<)ワールドカップの応援でやや寝不足気味ですが、これからの本格的な夏の暑さ負けず、乗り切りたいですね!ブログも毎月たくさん更新していますので、ホームページからぜひご覧になってくださいね♪(広報委員H)



## 地域に求められる病院をめざして ~同行二人~

近年社会の変化として、よりストレスフルな社会情勢。少子高齢化といった問題もありますが、医療の現場も大きく変わりつつあります。

より専門性のある病院、かかりつけ医、地域に密着した病院、地域のネットワークが求められています。

「同行二人」とは西国巡礼者などが使う言葉です。四国のお遍路を始めると、様々なところで目にします。お遍路では1人で歩いていても常に「弘法大師」が側にいて守りを受けているとされています。私達医療者は代わりに病気をひきうけられません。しかし「よりよい」「支える」ことはできるかもしれません。

今年抑うつ、眠れない、原因不明の体調不良、対人関係の悩みと精神的問題は、様々な要因が関係しています。当院では「生物(身体)」「心理(性格)」「社会(環境)」という3方向から診断と治療を大切にしています。ただ患者様の症状だけを診て薬を出して終わりではなく、1人ひとりの生い立ちや環境にも目を向け、現在症状となって表れていることは何が原因なのか、再発を防ぐために根本を理解した上で診断治療に取り込むことが大切と考えています。それは医師のみでなく、看護師、コメディカル(臨床心理士、薬剤師、臨床検査技師、精神保健福祉士、作業療法士、管理栄養士、医療事務、ケアスタッフ)とチーム医療を実践しています。その上できちんと治ること、すなわち治療終了を目指します。

そして地域の病院との連携をとりながら、地域に貢献できれば、と考えています。私たちは「ここにきてよかった」と言われる病院を目指したいと思います。

※生物・心理・社会の三方向からの診断はG.L. Engelが提唱した医学モデル「bio.psycho.social model」に基づいています。



李 健勲

一般病院連携精神医学専門医  
精神神経医学会指導医  
老年精神医学会指導医  
認定産業医  
精神保健福祉士

## よこいと運動会

第39回「よこいと運動会」に参加してきました。

「よこいと」とは、みんながよこに繋がって横糸のようにつむと言う願いの意味だそうです。

直轄地区在住の三障がい(精神・身体・知的)の方々と、スポーツを通じ、ふれあいの体験をおこないました。

2病棟から、9名の患者様とスタッフ5名で、競技に参加。車椅子リレーでは、優勝して景品のそうめんを頂きました。ケーキの早食いでは当院の患者さんが1番になりました。

地域の方と関わることで、社会を身近に感じることが出来、また、退院の意欲の向上へと繋がるのです。

今回の参加で、当院では見られない患者さんの笑顔・表情の良さを見られたことを忘れられません。

(記事:2病棟スタッフ)



## 委員会リレー(褥瘡対策委員会)

私たち、褥瘡対策委員会は月1回の委員会と年2回の職員研修会を行い、職員みなさんに褥瘡を作らない対策を考えながら実行していただく様、日々努力しています。褥瘡を作る病院は看護の質、レベルが低いと言われていますが、以前ある〇×病院より褥瘡が治らないので当院で治療して欲しいと言われてかなり悪い状態で入院されてきましたが、その患者様も治療され退院されました。当病院では171床有していますが、現在では褥瘡発生者は1名だけで今は、週1回の皮膚科診察によって、褥瘡もかなり小さくなり改善してきており、あと1歩の所です。これからも褥瘡発生者0名を目指し日々努力していきたいと思ひます。(褥瘡対策委員会 吉永)

## 私から見た直方中村病院 Vol.4

NPO法人 なおみの会 副理事長 第2作業所所長/國房 稔代様

私達と直方中村病院さんとの出会いは、平成24年8月10日に始まります。当時、我が家は45年同居し97歳で他界した義母の初盆を迎えようとしていました。ところが、息子の体調が急変し、やむをえず「入院」と決断せざるをえませんでした。盆前ということもあり、どこの病院からもことごとく断られ、途方に暮れていた時に、直方中村病院さんより「諾」の返事をいただいた時は涙が止まりませんでした。息子の入院先を必死に探して下さったMクリニックのPSWのKさんに今でも心から感謝しています。直方中村病院さんは、私達にとりましては初めての病院、不安と戸惑いの中、職員の方々の心温まる対応、不安を打ち消す言葉かけやその態度には徹底した院内教育の充実さが伺われ、私達に大きな安心感を与えて下さり、何よりも嬉しいことでした。また待合室等の内装も淡い暖色系を中心にと工夫され、アクセントの白い椅子、桜の巨匠「千波画伯」の絵画、ホテルのフロントを想い起させるゆるいカーブを描いた受付、点在するグリーンの植物、とつても心が和みます。年に1度、入院なさっている方々の作品の展示等はいかがでしょうか。

近年、社会資源が整備され、国の施策も「施設→地域」へと強化されていますが、私は現場の1スタッフとして「福祉の谷間」に位置する人々は今後どうなるのかなあいつも疑問を抱いています。医療は不可欠です。これまでと同様、心温まる医療の提供を…。そして、彼らの「心の燈台守」になって下さい。宜しくお願い致します。



(なおみの会第2作業所)

## 頭の体操に! 漢字クイズ



Q.すべて国を表す漢字です。みなさんはいくつ読めますか?

①伊太利亞

★ヒント★おいしい料理がたくさん!

④露西亞

★ヒント★とても寒い国です

②阿蘭陀

★ヒント★チューリップや風車…

⑤亜爾然丁

★ヒント★最後はヒントなしです!

③伯刺西爾

★ヒント★ワールドカップ開催!

正解は最終ページです

